



新学習指導要領におけるキャリア教育について（1）

平成29年告示の学習指導要領でキャリア教育がどのように位置づけられたかを、これから紹介していきます。まずは、キャリア教育の定義及び総則の確認をします。

「キャリア教育の定義」

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通じ、**基礎的・汎用的能力を中心に育成するもの**

「キャリア」とは

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な**役割**を担いながら生きている。（中略）人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との役割との関係を見だしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところ

（総則：小中高共通）

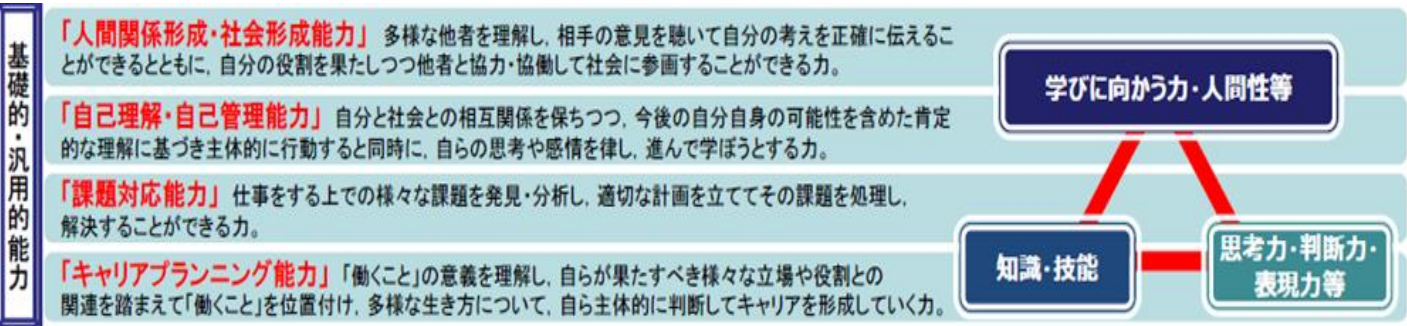
（児童）生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、**社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう**、特別活動を要しつつ各教科（・科目）等の特質に応じて、**キャリア教育の充実を図ること**。

「勤労観・職業観」のみを育てる教育ではない

勤労観・職業観の育成に過度に焦点が絞られがちであるが、**社会的・職業的自立のために必要な基礎となる能力の育成が**、キャリア教育の中心的な課題

職業教育はキャリア教育と同義ではない

職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するもの



総則改正の要点③「（児童）生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働」を重視する一つとして「キャリア教育の充実」が示されました。「キャリア教育」という言葉自体はすでに定着していますが、小中高の学習指導要領に示されたのは、今回の改定が初めてです。このことから、学校でキャリア教育を推進することが求められております。

次号からは、キャリア教育の課題や今後の基本的な方向性及び学校における具体的な方向性等を紹介します。

「中学生キャリアフォーラム in みやざき」開催！

8月18日（土）に県教育研修センターを会場として、「中学生キャリアフォーラム」を開催しました。県内各地から参加した中学生（約60名）は、地域医療と福祉の現状や未来について2名のゲスト講師からの熱いメッセージに聞き入り、講師及び参加者同士で対話を繰り返し広げました。



参加型トークセッション1 「本県の地域医療を考える」

宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座 教授 吉村 学 氏
○ 宮崎県の人口当たりの医師数は全国平均であるが、宮崎市郡に集中していて、それ以外の都市圏には少ないこと。また、産婦人科、小児科医が少なく、若手医師が不足し医師の高齢化が進んでいる状況等が説明されました。

○ その状況を解決するために、県民の皆さんに我がこととして認識していただくこと、高校と大学の接続をより丁寧にするため学校の先生方と密なコミュニケーションをとること、地域の課題は共通しているため世界と一緒に考えることの実践事例の紹介がありました。

○ 中学生には、「目の前のこと（勉強、部活、何でも）を一生懸命にする」「地元のこと（地域の産業、地域の取組、何でも）に関心をよせる」「職場体験学習などに思い切って参加する」等のメッセージをいただきました。



参加型トークセッション2 「本県の高齢者福祉を考える」

社会福祉法人スマイリング・パーク 理事長 山田 一久 氏
○ 最初に今後の介護職員の人材不足は、今の高齢者ではなく私たち自身が直面する問題であることで、介護ロボットやICTの活用等で補完しようとしていることが説明されました。

○ 介護士に求められる必要な力は「体力」「優しさ」「コミュニケーション力」と思われているが、福祉に携わる人はそれ以外に「企画力」「問題解決能力」「観察力」「共同する力」等が必要と考えていること。福祉士は「皆さんの夢を叶える、幸せな生活を創る人」で、「呼吸・食事・排泄」「寝る・起きる・入浴・着脱」等の業務イメージが強いが、「趣味」「楽しみ」「喜び」を与える業務の方が大きいこと等の専門的な話をいただきました。



参加者のコメント（一部）

中学生より

「宮崎県が医療面においていかに危機的状況なのかを知ることができた。僕は将来福祉工業の道に進みたいと思っているので実際に介護の現場で使われているロボットについても知ることができ、将来への道のりがより具体的になった。」

「今回話を聞いて人口減少や高齢者はどの地域でも、どの職業でも深い繋がりがあるのだと思った。医療や福祉には若者の力が必要だということも分かった。これからは宮崎のことにも興味、関心をもち、視野を広げていきたいと思う。」

「地域医療にしても高齢者福祉についても2人の先生方から「私たちが今できること」についてのお話を聞くことができ、とても参考になりました。」